

大学名	兵庫教育大学		
University	Hyogo University of Teacher Education		
外国人研究者	バダマーワンチグ ソルザヤ		
Foreign Researcher	Badmaavanchig Zolzaya		
受入研究者	石倉健二	職名	教授
Research Advisor	Ishikura Kenji	Position	Professor
受入学部/研究科	学校教育研究科		
Faculty/Department	Graduate School of Education		

<外国人研究者プロフィール/Profile>

国籍	モンゴル
Nationality	Mongolia
所属機関	モンゴル国立教育大学
Affiliation	Mongolian National University of Education
現在の職名	講師
Position	Lecturer
研究期間	2018年7月1日 ~ 2018年8月31日 (62日間)
Period of Stay	62days (07/01, 2018 - 08/31, 2018)
専攻分野	特別支援教育
Major Field	Special Needs Education



図書館にて
B. Zolzaya in Library

<外国人研究者からの報告/Foreign Researcher Report>

<p>①研究課題 / Theme of Research</p> <p>モンゴルの特別支援学校の教育課程は通常学校のものに基づいており、子どもの障害の状態や発達の程度に応じた柔軟な変更をすることが認められていない。そのため障害のある子どもの発達の程度や状態に応じて、変更できるような教育課程の整備を進める必要がある。それに関して、日本の特別支援学校や通常学校における特別支援学校の教育課程を検討する。</p>
<p>②研究概要 / Outline of Research</p> <p>視覚障害児の特別支援学校、肢体不自由児の特別支援学校、通常学校における特別支援学級に行き、学校内や教室の環境、バリアフリーを見学、小学生たちの授業を視察した。また、教育課程を作成する時の手順や注意すること、週間や一日の授業の計画について学校の管理者や教師たちから説明を受け、意見交換した。また、モンゴルの特別支援教育の状況について詳しい研究者がいる静岡大学や名古屋大学、東京家政大学に行き、日本の特別支援学校の教育課程やモンゴルの特別支援学校の教育課程の現在の状況、モンゴルの特別支援教育の教員養成での教育実習の課題、教育実習の改善や在り方について相談した。</p>
<p>③研究成果 / Results of Research</p> <p>視覚障害特別支援学校における指導法や教育課程について具体的に理解することができた。また、特別支援学級の視察と意見交換によって、特別支援学級は障害のある子どもの発達、自立のための能力を伸ばすだけでなく他の教員や生徒たちの障害児への理解、考え方に影響を与えていることが分かった。また、特別支援学級の教育課程や計画の作成の重要性和そのための方法を理解することができた。また、静岡大学、名古屋大学、東京家政大学の特別支援教育の研究者たちと、最近のモンゴルの特別支援教育の情報を交換し、モンゴルの特別支援学校の教育課程の状況の改善について協議を行った。また、モンゴル国立教育大学の特別支援教育実習などの今後の研究予定を話し合い、協力関係を進めることが出来た。</p>
<p>④今後の計画 / Further Research Plan</p> <p>以下の5つについて、共同研究を進めていきたいと考えている。①障害のある子どもの発達や障害程度に応じて個別の教育支援計画の作成の在り方、指導方法について共同研究を行う。②モンゴル国立教育大学で特別支援教育修士課程を開発する必要性を検討する。③モンゴル国立教育大学の特別支援教育学部の学生の特別支援学校での教育実習の手引きを作成する。④モンゴル国立教育大学の特別支援教育学部の教員の知識を向上する機会。⑤障害児の発達の評価方法やマニュアルをモンゴル語に翻訳、作成することについて研究する。</p>

<受入研究者からの報告/Research Advisor Report>

①研究課題 / Theme of Research

モンゴルではインクルーシブ教育システムの整備が急ピッチで進んでいるが、現存する障害児のための特別支援学校の教育課程は、通常学校の教育課程をわずかに修正しただけのものであり、軽度障害以外の障害のある児童生徒に対応することができない。そのため、重い障害のある児童生徒に学校教育を保障するためには、発達段階や障害の程度に応じた教育課程を整備することが喫緊の課題である。そのために、日本の特別支援学校の教育課程及び、それを参考としている特別支援学級の教育課程について、個別の指導計画や指導方法と併せて実情について調査を行うことを、主な研究課題とする。

②研究概要 / Outline of Research

以下の3つの研究活動に取組めるように、関係各機関及び関係者と連絡調整を行い、全ての活動に同行した。その上で、必要な情報等についての補足などを行った。さらに訪問や現場での協議を行った後は、振り返りと確認のためのミーティングを行った。主な研究活動は、以下の通り。①特別支援学校及び特別支援学級の教育課程、個別の指導計画、授業実践の視察と学校現場での意見交換、②教育委員会担当者との意見交換と資料提供、③静岡大学香野毅教授、名古屋大学野邑健二教授、東京家政大学半澤嘉博教授とモンゴルの特別支援教育の整備に関連する事項についての意見交換。

③研究成果 / Results of Research

今回の短期研究で、以下のような成果が認められた。①特別支援学校と特別支援学級の視察と現場での意見交換では、視覚障害や知的障害、肢体不自由、発達障害のある児童・生徒について、一人一人の発達段階や障害の程度に応じた教育課程の設定方法、個別の指導計画の作成方法、教材開発等について理解が進んだ。②教育委員会との意見交換や資料提供では、具体的な授業内容やその授業計画について理解が進んだ。③大学教員との意見交換では、特別支援学校の教育課程、モンゴルの特別支援学校教員養成における実習の内容や方法に関する課題が明らかとなり、今後の改善の方向性について理解が進んだ。これらの成果は、モンゴルにおけるインクルーシブ教育システムの構築に有用であるだけでなく、日本との共同研究の方向性も明らかにするものであった。

④今後の計画 / Further Research Plan

今後は、以下の共同研究が望まれる。①障害のある子どもの発達や障害程度に応じた個別的教育指導計画等の作成の在り方と指導方法の開発。②モンゴル国立教育大学大学院特別支援教育修士課程の整備についての検討。③モンゴル国立教育大学特別支援教育学部学生の特別支援学校での教育実習の手引きの作成。④モンゴル国立教育大学特別支援教育学部教員の専門性向上に向けた共同研究の実践。⑤障害児の発達についてのアセスメント法の開発又は現存するもののモンゴル語への翻訳。これらのいずれかについての研究資金を獲得することで、共同研究のための体制を整備する。そのために、兵庫教育大学の学内外の研究費に積極的に応募を継続する。



兵庫教育大学での研究協議
Meeting at Hyogo University of Teacher Education



名古屋大学での研究協議
Meeting with Professors at Nagoya University